

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年3月20日(2014.3.20)

【公開番号】特開2012-208250(P2012-208250A)

【公開日】平成24年10月25日(2012.10.25)

【年通号数】公開・登録公報2012-044

【出願番号】特願2011-72906(P2011-72906)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

C 0 9 J 163/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

B 3 2 B 27/38 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

C 0 9 J 163/00

C 0 9 J 11/06

B 3 2 B 27/30 1 0 2

B 3 2 B 27/38

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月3日(2014.2.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

一方、二色性色素として二色性有機染料を用いる場合は、通常、水溶性の二色性有機染料を含む水溶液に、ポリビニルアルコール系樹脂フィルムを浸漬して染色する方法が採用される。この水溶液における二色性有機染料の含有量は通常、水100重量部あたり $1 \times 10^{-3} \sim 1 \times 10^{-2}$ 重量部程度である。この水溶液は、硫酸ナトリウムなどの無機塩を含有していてもよい。この水溶液の温度は、通常20～80程度であり、また、この水溶液への浸漬時間(染色時間)は、通常30～300秒程度である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 1】

積層光学部材においては、偏光板以外の光学層として位相差フィルムを含むものが、液晶表示装置に適用したときに有効に光学補償を行えることから、好ましく用いられる。位相差フィルムの位相差値(面内および厚み方向)は、適用される液晶セルに応じて、最適なものを選べばよい。